

情報ステーション しろやま

安全で安心して暮らせるまちづくりを 城山地区コミュニティ協議会長 大島 威二

城山地区コミュニティ協議会は、現在、25の構成団体によって編成された住民と行政の協働による住民主体のまちづくり組織です。それぞれの構成団体は、地区内各分野での活躍を通して城山地区まちづくりの一翼を担ってくれています。

本会の第一の役目は、これらまちづくりに寄与している構成団体の活動をしっかり支えることです。今年度予算のほぼ半額が各団体への補助金・配分金として計上されており、予算執行に当たっては、あくまで公平・公正を期してまいります。

ところで、本会が進めている活動で、城山地区の皆さんの十分なご理解とご支援を頂きながら推進していかねばならない取り組みが二つあります。その一つは大谷石採石場跡地に関する安全対策議論の集約です。もう一つは城山中央小学校前の県道70号線の児童生徒の安全通学のための歩道整備に向けた取り組みです。

平成元年の坂本地区大陥没後、10数年間採石跡地安全対策の検討を重ねてきた大谷創生協議会が、城山地区全住民の問題として再検討し、年度内結論を期して今年度から本会に仲間入りしました。これに呼応して市や市議会も問題解決に積極的に乗り出してきているので、必ずや将来に禍根を残すことのない安全対策の道が見い出されるものと確信しております。

70号線の歩道整備の方は、田野町東交差点から城山中央小までの歩道整備工事の着工決定を機に、さらに大谷橋までの延長工事要望の声上がり、近接の荒針自治会で要望署名が纏まったところです。近々、署名簿を携えて、県・関係機関への要望書提出の運びになっています。狭いながら城山の主要道路であり、こどもの安全通学とまちの活性化に向けて是非実現したいものです。

振り返ると、昨年末の今市事件を機に、当地でも子どもの安全通学支援活動が見直され、各小学校区毎にPTA・自治会・老人会等による新たな活動がスタートし、今年度も継続されており、当地にしっかり定着させたい活動の一つとなりました。また、9月24日に、地区市民センター入口に無事故の願いを込めて立てられた“交通安全宣言塔”の除幕式がありました。

こうした諸活動からして、城山地区住民の生活と環境の安全性ということが本会の取り組みの大きな課題のひとつとなっています。自治会の加入率の低下や住民相互の連帯感の希薄化等の指摘を耳にしますが、それらに動じることなく、安全で安心して暮らせるまちづくりの担い手として、手を携え、前進あるのみです。安全安心なまちで観光大谷が再生し、地域の各産業が興隆・発展し、スポーツ・文化活動も盛んで、住民だれもが多様な個性・自分らしさを輝かせ合うまちづくりを目指していきましょう。わたくしも力不足ながら“みんなでまちづくり”の旗振り役を務めてまいります。



9 / 24 城山地区の交通安全を願って地区市民センター敷地内にシンボル塔が立ちました

検討しています

「地下採石跡地の安全対策」

私たちの地区内には、大谷寺や平和観音などの観光資源、大谷公会堂を始めとした大谷石建造物、古賀志山、森林公園といった野外活動のスポットや風光明媚な自然景観など、他の地域やまちに誇れる数多くの資源を有しています。

そして7月には、大谷そして多気の地をキャンパスに、長年をかけて自然が作り出した「御止山」、「越路岩」が、本県では75年ぶりに国の名勝に指定され、「世界の日光」と並び称されることとなりました。

これらの恵まれた資源を守り、育んでいくためには、もう一つの大きな資源であり、古くから地域を支えてきた大谷石産業の採石跡地についても、活用や安全性の確保など、抜本的な対応策を考えていく必要があります。

採石の歴史や地下の状況を知る人が徐々に減っていく中で、それぞれ個人の資産とはいえ、生活環境上の安全や地域振興の礎となるこの問題は、地域全体として真剣に取り組んでいかなければならない問題です。

大谷創生協議会では、この採石跡地の安全対策について、国の構造改革特区制度を活用し、溶融一般廃棄物（溶融スラグ）を使った埋め戻し対策の実施について検討していますが、「地下の空洞にどのように対応していくか」については、誰が、どのような手法で、どのように行うことができるのか、また、それらが地域で理解を得られるのかなど、大変多くの課題・問題を含んでいます。

現在、特区計画のエリアとして検討されている大谷町内6つの自治会長、そして大谷創生協議会、大谷石材協同組合、城山地区コミュニティ協議会の代表者の方々が、これらの課題・問題をどう解決し、地域の安全を確保していけるのか、市の呼びかけで設置した「安全対策検討会」という協議の場で、まちづくりや地質学、法律関係の有識者の方々の助言を得ながら、真剣な検討を繰り返しています。

これらの努力の成果が実を結び、やがて次代の子供たちにも誇れるまちにしていきたいですね。

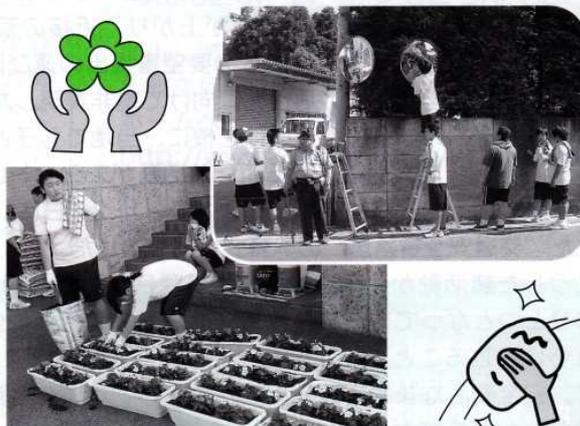


城山クリーンアップ2006

8月5日に行われた城山クリーンアップ2006では地域の皆さんや小学生の皆さんが協力してくれたおかげで、城山地区がとてもきれいになりました。

主にゴミ拾いや駐車場の除草、ペンキ塗り、市民センターでの草花の植え込み、カーブミラーの清掃などを行いました。城山地区では毎年この活動を行っていますが、汚くなってしまいますのでポイ捨てなどをしないようにしてほしいです。今後もこのきれいな城山地区を保つためによりまちづくりをしていきたいです。

城山中学校生徒会長 菊池 弘樹



県道70号線 歩道設置の要望活動スタート

～児童・生徒等の安全確保のために～

県道70号線（大谷橋から田野町東交差点までの区間）の狭隘道路問題は、これまで城山地区で開催された「宇都宮市長とのまちづくり懇談会」の席上等で、再三に亘る住民要望があり、その実現は積年の課題であります。

県道70号線の現状を見ると、道路幅員は約7.5メートルで片側一車線、一日あたりの車両通行量は13,000台を超える城山地区の幹線道路であり、大型バスの乗り入れる観光道路、トラックの往来する産業道路でもあります。

また、この道路は、城山中学校生徒の通学路としても利用されております。歩道と車道との境界は白線表示のみで仕切られており、自転車通学の生徒は、歩道となっている不安定な側溝の上を、電柱等の障害物を避け、通行車両の風圧を受けながら、連日登下校しております。

こうした深刻な事故に直結する恐れのある道路状況を放置しているのは住民保護者にとっても心残りありません。

昨年、田野町自治会並びに関係住民のご尽力により、城山中央小学校から田野町東交差点までの区間、約300メートルについては、県において歩道設置のための事業説明会があり、地元の了解が得られたことから、事業着手の運びとなっております。

この動きに連動し、地域まちづくりの中核的組織である城山地区コミュニティ協議会と城山地区連合自治会は、児童・生徒の安全確保の緊急性、歩道設置の実現性の高さ、さらに、歩道設置は道路全体の幅員増につながるなどから、直近自治会である荒針自治会を中心に、歩道設置の署名活動を展開したところであります。

盛夏の折、文字どおり汗をかいて頂いた荒針自治会役員・各班長さん、趣旨に賛同し、ご署名くださった800名を超える住民各位の“思い”を重く受け止め、今後、城山地区コミュニティ協議会と城山地区連合自治会は、連名により道路管理者である栃木県をはじめ関係機関に歩道設置の早期実現を要望する段階に至りました。

なお、今般の取組みは、地域住民とまちづくり組織、それをサポートする地区行政との“市民協働”により推進されていることは、真に意義あるもので、今後の成り行きをみんなで見守りましょう。



アジサイの花いっぱいの学校を目指して ～明保小学校フラワーロード～

創立130周年記念事業として提案されたフラワーロード。昨年度、学校を囲むように400本近いアジサイの花の苗が植えられ、今年度も引き続き、児童・PTA・地域の方々と協力しながら、整備を進めています。先月9月2日にも親子奉仕作業を行い、夏休みの間に丈の伸びた雑草を取り除きました。こうした活動により、子供たちが自然とふれあい、また世代を超えた交流を通して、たすけあいの心を学んでくれることを願っています。

（通信員：和久井可奈 明保小PTA）





元気で にぎやかです (各自治会行事風景)



田下町自治会恒例カラオケ大会開催

9月16日(土)、公民館に、80名以上の町内の皆さんが集まり「田下町自治会カラオケを楽しむ夕べ」が午後6時に開会されました。この集いは、今年で26回目となり、地域住民の方にとっては楽しい年中行事の一つです。

開会前には町内有志手作りの、味に評判の「おでんとやきそば」が用意されました。開宴と同時に400食の完売御礼の貼紙が出されました。

今年もプログラムの中間に「子供のお囃子会の披露」があり、30曲のうち5曲が熱演のなかに披露演奏され、「よくぞここまでおぼえたもの」と、割れんばかりの参会者の拍手大喝采を受けていました。

カラオケの出場者も30名が事前に申し込みをし、当日の飛び入りも6名ほどあり熱唱の連続でした。歌い手が隣近所の顔見知りです。一曲終わる毎に拍手とほめ言葉がかけられ、曲によっては、ダンスをする人、手拍子で全員が応援するなど、ビールを呑むのを一時中断して応援の方にも熱が入りました。

一人一人が個性ある作品として日ごろの練習成果を精一杯披露する熱気のある大会で、全員に賞品が渡されました。

最後に特別景品の抽選会も行われ、皆さんのご協力と和気あいあいの雰囲気の中、最高の盛り上がりでした。また来年の「楽しむ夕べ」に期待を込めて「関東一本メ」で幕となりました。

(自治会長 田島 孝夫)



敬老者 賑やかに楽しく 十分に楽しみました PART I

上駒生自治会は、敬老会を9月10日(日)午前11時より公民館で開催しました。従来は城山地区市民センターで行なってきましたが、上駒生の参加者が1、2名という事で地域の方々の要望により、平成17年より地元で開催しています。今年で2回目ですが、今回は17名のお年寄りの参加がありました。自治会長、来賓の挨拶の後、ボランティアの歌都總會(かずほかい)による尺八、三味線、民謡、踊り、鈴木ミツエ様他2名でのマジックショー、吉澤様により参加者の似顔絵を描いていただきました。参加者全員が忙しく楽しい一日を過ごしました。

(自治会長 石塚 豊)



敬老者 賑やかに楽しく 充分に楽しみました PARTII

9月17日午前9時40分、長坂坂上の大地にお囃子の笛太鼓が響き渡りました。明保子供お囃子会の子供達が公民館の玄関前で演奏する敬老会参加者へのお迎え囃子が「テレツクドンドンピーヒャララ」と続々集まるお年寄りの足を小走りにさせました。

午前10時定刻に自治会田中副会長の開会あいさつで始まった敬老会は、25名が出席され、金田自治会長、刀川民生委員のあいさつ、澤井長寿会長の知事、市長祝辞の代読と進み、全招待者への記念品贈呈のほか米寿を迎えた沼子クラさん、竹澤春江さんを代表して出席された沼子さんへ市長からの米寿褒状と記念品が手渡されて式典を終わりました。続いてイベントに移り、明保子供お囃子会が「旧小門町吉兵衛流五段囃子」を5曲連続して演奏しながら次々と交替していく鮮やかな撥さばきを堪能させてくれました。続いて「ハノハノクラブ」のハワイアンフラダンスショーが華やかに披露され、「ハワイの夜」から「アロハ・オエ」まで華麗な踊りに拍手を浴びました。

さらに、この公民館で月一度の練習を積まれて2年、ライアーという竖琴を皆さんと一緒に歌いたいと昔の小学校唱歌の歌詞を参加者と合唱しました。

最後は、昨年からの協力を頂いている楽器の得意な荒井元小学校長のアコーディオン、奥様の懐かしい歌などを全員で合唱し、楽しい交歓会となりました。

敬老会は来年の元気な再会を固く約束しながら田中副会長の閉会あいさつでお開きとなりました。

(長坂自治会 沢井 勇)



交通死亡事故 多発中!

市内で交通死亡事故が多発しています。悲惨な交通事故を一件でもなくするため、一人ひとりが交通ルールと交通マナーを守り、交通事故防止に努めましょう。

*** お知らせ ***

昨年のまちづくり懇談会で提言した「農産加工所」(田野町に設置)は、国や市の補助を受け、19年1月のオープンを目指し、メンバー一同、安全でおいしい農産加工品をご提供できるよう総力を挙げて取り組んでいるところです。御期待ください。(城山地区農産加工会 細谷タミ子)

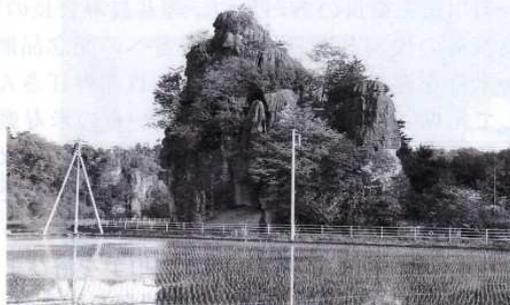
おとめやま こしじいわ 名勝指定されました 「御止山、越路岩」

平成18年7月28日 大谷の奇岩群が国の名勝「大谷の奇岩群 御止山 越路岩」として指定されました。凝灰岩の奇岩群が創り出した独特の風景は、江戸時代後期の紀行文をはじめ、川上澄生の版画、山口青邨の俳句などにも紹介され、我が国にとって、歴史上、芸術上、学術上の価値が高い記念物であると評価されたものです。

本県では日光「華厳の滝と中禅寺湖」に次ぐ2例目、75年ぶりです。他県にある名勝には、群馬県の「妙義山」や、宮城県の「松島」等があります。



景観公園から見た御止山



越路岩：景観公園から北へ徒歩約30分、姿川沿い

◆◆◆ 活動を始めました 福祉協力員（西の宮） ◆◆◆

平成18年6月宇都宮市社会福祉協議会から城山地区内で41名の福祉協力員の委嘱発令がありました。西の宮自治会からは5名のみなさんが委嘱を受けております。

活動のスタートにあたって、職務のガイドライン等々は理解できるのですが「実行」という点で、「さて何から…」と足踏みをする状態でした。

そのような折に、西の宮自治会では今年から「快援隊」というプロジェクトを立ち上げ様々な調査を開始するところでした。

＝ 快援隊 ＝

ご高齢で、簡単な作業も難しくなっておられる会員に要望があればそのお手伝いをするチームを編成しようとするものです。西の宮自治会内に「要望があるか否か」を調査するグループと「作業」を行うグループが編成されます。例えば、蛍光灯の交換が出来ない方から依頼があれば蛍光灯を購入し交換作業を行うという単純なものです。

福祉協力員の実務のスタートをこの快援隊の「調査作業」を切り口として活動に入ることになりました。今年6月の調査では自治会員の内35名の高齢独居者がおられ、このデータを基に民生委員と福祉協力員がコンビを組み、7月～8月にかけて委員として委嘱を受けた挨拶を兼ねて快援隊の説明を対象とする全戸に行いました。

「日常のことでお手伝いすることはありませんか」の切り口は訪問先の各戸で喜んで頂き、また、協力員の目的も充分にご理解頂いたものと思われまます。

この一連の活動の報告会が9月後半に持たれ、結果の総括を行い、次ぎの計画に向けて少しずつ作業の輪を広げて行くこととなります。

(通信員：太田 光彦 西の宮一丁目)



「フェスタin大谷2006」の開催にあたって

フェスタin大谷実行委員会 実行委員長 大垣 忠義

大谷地区の皆様をはじめ、城山地区の皆様のご理解とご協力をいただき、「フェスタin大谷」が、今年も10月28日(土)・29日(日)の2日間にわたり開催できますことに対し、厚く、感謝申し上げます。

さて、「フェスタin大谷」は、今年で7年目をむかえ、「石の里・大谷」から広く情報を発信するイベントとして内容の充実を図り、多くの参加団体にも協力を得ながら、開催に向けて準備を進めているところであります。

今年のテーマを「おいでよ。秋の大谷は楽しさいっぱい」とし、大谷景観公園をメイン会場に、多気山持宝院、城山地区市民センター、旧大谷公会堂などを会場として、子供から大人までが楽しめるよう企画しております。

このイベントにより、地元、城山地区の皆様と来場者の交流が深まるとともに、「大谷のすばらしさ」が再発見できるよう期待するものであります。

皆様のご来場を心からお待ちしております。



準備万全 フェスタin大谷2006

9月10日(日)、午前11時ごろ新しく出来たシンボルロードの丁度まんなかあたりの「ポケット・パーク」に、5～6名が集まっていた。

その敷地の奥まったところに『旧帝国ホテルのモニュメント“壺”』が展示されています。その前で「うつのみやシティガイド」の皆さんが勉強会を開いていたのです。(写真)

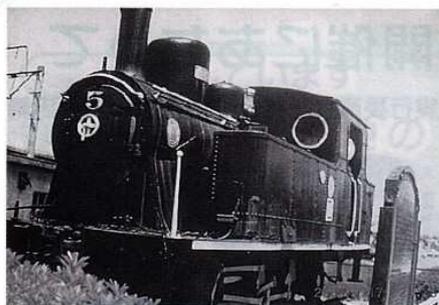
これは、フェスタin大谷2006という恒例のイベントが今年も10月28・29日の両日開催されますが、景観公園分科会の「大谷周遊コース」の観光ガイドを担当する方たちが、その日の成功を願っての事前研修会を実施していた1シーンでした。

周遊コースは、約1時間のコースで2つあり、奇岩めぐりのAコースと「屏風岩建物+旧大谷公会堂+多気山不動尊詣で」の歴史的建造物めぐりのBコースです。Bコースはシャトルバスを利用します。そしてAコースに連動しています。

大谷の奇岩は、国の名勝指定を受けたばかりで案内も楽しくしたいとのことでした。

(通信員：永森 庄二 田下町)





壬生町おもちゃのまち駅前で保存されています

大谷石運搬に活躍した機関車

大正12年に発生した「関東大震災」により、大谷石の名前が知られるようになり、注文が全国からよせられました。

ところが、現地の輸送体制が整わず、その需要にはすぐには対応できなかったのです。やっと、発送の手配が整備できたのは、記録によると「昭和4年（1929）」とあります。

大谷石を載せて走る貨車を牽引したのは、この写真にある蒸気機関車です。

この写真の機関車の動輪は3個でした。終点の立岩駅（現在の立岩児童公園の近く）には機関車の転車台がありませんでしたので、ずうっと手前の荒針駅（現在の市民センター近くのパチンコ店のある場所）から機関車はバックして立岩駅に向けて走行したこともあったようで、当時としては、懐かしい田園風景だったようです。1日6便程度が定時の走行でしたが、最盛期には18便も出たとのことです。

終戦後も暫く蒸気機関車による輸送は続いていましたが、トラック便による大谷石の輸送が活発になり、やがて採算がとれなくなり、軌道は廃線となりました。最後の立岩駅を出発する時は、見送る人は駅長さん一人だったと当時の新聞が伝えています。

宇都宮市文化財解説・観光ガイド 永森 庄二

● これからの城山の主な行事 ●

- 10月21日(土)～22日(日) ジャパンカップサイクルロードレース
- 10月28日(土)～29日(日) フェスタ in 大谷 (景観公園外)
- 11月3日(金)～4日(土) 文化祭・農業祭 (城山地区市民センター)
- 11月11日(土)～12日(日) 古賀志の秋まつり (古賀志山清掃登山、唐沢池沼干し等)
- 1月7日(日) 成人式 (コンセール)
- 1月28日(日) (予定) 防災訓練 (明保小)

編集後記

*住民みんなの情報誌を目指そうと、7月から広報部会（広報誌発行・HP運営が主な業務）を立ち上げ、初めて取り組んだ情報誌です。（部会長 川鍋）

*名勝指定された「御止山」頂上からの展望は、大谷随一の景勝地として知られ、大正天皇も賞賛されています。情報誌「しろやま」も「やさしさ」が同え、発行を待ち望んでもらえるようなものになるといいですね。

(太田・平井)

投稿募集



あなたが撮った城山の風景や行事、人とのふれあい等を表現した写真を募集しています。コメントも添えてお寄せください。（紙面の関係上掲載できないこともありますのでご了承ください）

問い合わせ：城山地区市民センター内

「情報ステーション しろやま」担当まで

城山地区ホームページもごらんください

城山に関する様々な情報もお寄せください。広報部員が取材に伺います。

ホームページアドレス

<http://www2.ucatv.ne.jp/~shiro333/>

eメールアドレス

u2219@city.utsunomiya.tochigi.jp

城山地区の人口（平成18年9月末現在）

- 総世帯数 8,757世帯 ● 総人口 23,339人
- 男：11,570人 女：11,769人



編集・発行

城山地区コミュニティ協議会

〒321-0345 宇都宮市大谷町1059番地5

宇都宮市城山地区市民センター内

TEL 028-652-4794 FAX 028-652-5570